

## 船舶事故調査報告書

平成26年7月3日  
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決  
 委員 横山 鐵男（部会長）  
 委員 庄司 邦昭  
 委員 根本 美奈

事故種類	乗揚
発生日時	平成25年12月13日 23時00分ごろ
発生場所	愛媛県今治市大角鼻南東方沖 今治市所在の波方港東防波堤灯台から真方位337° 1,850m 付近 （概位 北緯34° 08.3′ 東経132° 56.9′）
事故調査の経過	平成26年1月9日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
<b>事実情報</b> 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	貨物船 第十一進宏丸、499トン 141590、進宏海運株式会社 75.87m×12.00m×7.07m、鋼 ディーゼル機関、1,471kW、平成24年2月
乗組員等に関する情報	船長 男性 64歳 五級海技士（航海） 免許年月日 昭和62年6月11日 免状交付年月日 平成23年11月22日 免状有効期間満了日 平成29年6月10日
死傷者等	なし
損傷	船底に凹損及び擦過傷
事故の経過	本船は、船長ほか4人が乗り組み、スチールコイル約1,563tを積載し、船首約3.59m、船尾約4.48mの喫水により、大角鼻南東方沖を前進行きあしで接舷するために作業船に向かった。 本船は、三ツ磯と称する浅所付近で接舷作業中、潮流によって西方へ圧流され、平成25年12月13日23時00分ごろ、波方港東防波堤灯台から真方位337° 1,850m付近において、三ツ磯付近の浅所に乗り揚げた。 本船は、船長が海上保安庁等に事故の発生を連絡した後、タグボートに引き出され、自力で阪神港大阪区に入港した。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北西、風力 3、視界 良好 海象：波高 約0.5m、潮汐 下げ潮の中央期、潮高 約1.8m、 潮流 北流約2ノット（kn）

	<p>本事故発生場所は、来島海峡北口に当たり、来島海峡における潮流の最強時の時刻、流向及び流速は、23時41分、北流5.3knであった。</p>
その他の事項	<p>三ツ磯は、洗岩や暗岩が存在する水深2m以下の浅所である。 船長は、大角鼻南東方沖に三ツ磯が存在することを知っていた。</p>
<b>分析</b> 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>あり なし あり</p> <p>本船は、大角鼻南東方沖において、作業船に接舷作業中、潮流によって西方へ圧流されたことから、三ツ磯付近の浅所に乗り揚げたものと考えられる。</p>
<b>原因</b>	<p>本事故は、夜間、本船が、大角鼻南東方沖において、作業船に接舷作業中、潮流によって西方へ圧流されたため、三ツ磯付近の浅所に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。</p>
<b>参考</b>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他船に接舷する場合、付近に浅所や障害物などが存在しない水域で行い、風潮流を考慮した操船を行うこと。</li> </ul>